

帯のまち流し フォトコンテスト 受賞者発表決定

三國湊帯のまち流しでは、毎年同時にフォトコンテストも開催しています。まち流しの風景や踊り手の表情を捉えた作品など、今年約六十もの作品が届けられました。たくさんのご応募をいただき、ありがとうございます。当社役員・会員の中から投票し、最優秀賞一名、優秀賞三名、佳作三名を選出しました。

- 最優秀賞 ● 前田由加里様「終演の彩り」(福井市)
- 優秀賞 ● 中村欣吾様「燃」(福井市) 竹内勲様「帯のまち流し」(福井市) 福岡幹子様「魂を込めて」(鯖江市)
- 佳作 ●



「終演の彩り」 前田由加里さん作品



「燃」 中村欣吾さん作品

以上の方々です。最優秀賞に選ばれた前田さんの作品の決め手は、龍翔館と帯のまち流しの町並みの様子、今年初めて子ども達にお願いした絵付けのミニ提灯が写っていたことです。とても賑やかな様子が優秀賞を射止めた理由でした。以上七名の作品は、町家館の中で展示してあります。ぜひ、ご来館ください。

レトロな町歩きに思いを込めて 三國湊マチノミセ 結成

昨年十月に、きたまえ通り周辺を中心とする新しいお店のオーナーが集結し、三國湊マチノミセを結成し、活動をスタートさせました。

活動第一弾は、レトロな町歩きマップの作成。味わい深い、昔ながらのレトロ印刷。可愛く、お部屋にもぜひ飾ってもらえたらという想いを込めたマップに仕上がっています。

きたまえ通りは、東尋坊から車で7分。サンセットビーチから5分、三國駅から徒歩で約5分のところにある、情緒残る町。新しい店舗には雑貨店、カフェ、体験もできるガラス



マチノミセMAP

アトリエ・盆栽店、フレンチ・デリのテイクアウトのお店が点在しています。リーダーで、三國湊の店長出地さんは、「昨年は「マチノミセ」結成、マップ作成を通して、皆さんとワイワイ話し合えてとても楽しかったです。「ステキな店に、ステキな人あり」と感じました。また今年も、この三國に多くの方が訪れてくれるよう、仕掛けていきたいですね。」と語ります。また、三本日和の店主畠山さんも、「昨年はマチノミセ設立し、心強い仲間ができて、とても嬉しかったです。」とお話しされています。マップは、マチノミセ

にしのおきひろさん 絵本原画展開催予定!



にしのおきひろさん

お笑いコンビ、キングコングの西野亮廣さん。最近ではきらわれ芸人の枠にピッタリとハマり、活躍されています。西野さんのもう一つの顔は、なんと絵本作家



「えんとつ町のプペル展」
にしのおきひろさん絵本原画展
in 福井・三國湊
2017.8.04 ~ 8.21

とご存知ですか? 0.03mの細いボールペンを使って絵を描きます。それはなんと独学です! 昨年、東京・大阪・名古屋・神戸など各地で展示会もされております。また、テレビでも自宅兼アトリエが公開されています。

そんなにしのおきひろさんの絵本原画展が2017年8月に三國で開催予定です! 主催者が集まり、三國會所もそのバックアップとして、展示会と三國湊町を盛り上げるために、懸命に動いています。現在は話し合いを進める中、会場は旧三國湊町界隈を予定。詳細日程の予定は次の通り。
2017年8月4~21日 LEDで光るえんとつ町のプペル展・絵本原画展(予定)
2017年8月19日・20日 三國湊プペル商店夏祭り にしのおきひろトークショー (予定)です。



三國は異色ある文学の町 詩歌文学館探訪

三國は異色ある文学の町 其の巻

三國は異色ある文学の町。文芸評論家の濱川博は「風景と人間文学とふるさと」の中で次のように書いています。
日本に「文学都市」と呼べる町があるかどうかは知らないが、もしそんな町があるとすれば、福井県にあると考えるわけにはゆくまい。帯のように細長いこの港町は、高見順の「荒磯」の里であり、三好達治が5年間も住んで「心のふるさと」と呼んだ町である。高浜虚子と愛弟子森田愛子との美しい師弟愛が生んだ「虹」はもの悲しい散文詩であり名品である。

若き四高生だった中野重治が「ぼろぎれ」の詩をうたいその師屋星が記者時代のひとときを過ごした青春流浪の地でもあった。屋星の心友萩原朔太郎の妹愛子が達治との愛憎の月日を送りさらに朔太郎の娘、葉子が名をばせた「天上の花」が生まれた不思議なめぐりあわせを想うとき、三國は全国的に見ても異色ある『文学の町』と言えるだろう。「マチノミセ(下新区公園)の中に設置してある詩歌文学館より抜粋」
詩歌文学館とは三國會所(旧三歴協)の事業としたもので、「街中が文学館」



お宝発見

昨年秋に、片山珉詞さん(三國町南本町)より車筆筒を寄付して頂きました。車筆筒とは、昔、商家で金品や帳面など大事なものを収め、金庫のように使われた筆筒のことを言います。柱のように太い框(かまち)と横棧ががっちり周りを取り囲み、いかにも厳重に内部を守る感じが与える構造となっています。下部に車が付いているのが特徴で、車筆筒と呼ばれる。火事などの災害時に綱を付けて引張って容易に移動できるようにしたものと言います。片山さんは「当時はこの引き出しの中にお札がギッシリと入っていたそうだよ! 当時、北前船で運んだ筆筒の中には、船が危なく、筆筒を海に投げ出しても、大きくなって沈まず、引き出しの中に水が入ってこないといい、頑丈になっていたので!」と教えて下さいました。町家館には縦七十cm、横一四〇cm、高さ一二〇cmの大きさの車筆筒です。



片山さんより寄贈された車筆筒

新規会員登録中

我々『三國會所』は、歴史と文化が溢れるこの三國が大好きで、この町を自分たちの手で活性化するための、企画立案を実行している団体です。主な事業は、三國節で古い街並みを踊り流す「三國湊 帯のまち流し」、空家を改修して店舗等を誘致する「町並み保存・復興」、歴史・文化遺産を紹介する「観光・回遊」などです。

発行・連絡先

一般社団法人 三國會所
坂井市三國町北本町4丁目6-55
TEL82-8392 fax82-7392
mail:mikunikaisyo@gmail.com

編集はその後

三國が好きの方、町づくりに興味のある方、いろいろなジャンルの人たちと交流したい方、是非『三國會所』のメンバーになって一緒に活動してみませんか。参加資格は三國町内外、老若男女を問いません。ただし、年会費として1,000円を納めていただきます。また、この活動に賛同していただける、団体・企業のご

が特徴で、今回この瓦版を発行する運びとなりましたのは、三國會所 という団体の存在と活動の意義を多くの皆様を知っていただきたくからです。本会は約20年前に、三國町商工会と三國町観光協会が中心となり結成された、みくに歴史を生かすまちづくり推進協議会を起源としております。以来、「北前ストリーム」や「三國湊のまち流し」などを開催し、昨年末からは、FBCや総務省から栄誉ある賞をいただくことになり、町内外の方々にある程度認知されてきたのではと自負しております。しかし、更に多くの方々を共有し、活動に対するご助言いただくためにも、広報誌を発行したらどうかと考えました。こういうことは、言い出しつぺが責任をとり行動に移すということが常なものでしょうが、そんな雰囲気になり、浅学非才の私が編集長を拝命することになりました。なったからには、頑張つて、四半期に一度の新年号、春陽号、盛夏号、秋晴号といった具合に、年間四回は発行しなければ、いや発行したい、いや発行するという気が構えになってきました。製作にあたり、わが団体に、専属の敏腕記者の存在はなく、編集長と事務局が記事集めをこなしてはならない状況で、各委員会からの記事提供が頼りなのが現状です。各委員会が報告を記事にして、締め切り厳守で提出してくれるかどうか、我が会と本瓦版の行く末が試されることです。今回が創刊号ですので、紙面構成については苦労いたしました。皆様からの反響をくみ取り、今後より良い紙面にしていきたいと思っております。今後ともご愛読の程よろしくお願いたします。(はち)